

## ナショナルトレーニングセンターの在り方に関する検討会議 委員の主な意見（第2回まで）

### ＜強化拠点の必要性について＞

- 強化と支援と研究が一体でなければ、今のハイパフォーマンススポーツの中で勝ち続けることは難しくなっている。特にパラリンピック競技では、居住地の近くに練習場があり、その近隣で色々なサポートが受けられることが重要。
- JISSができたことによって、医・科学サポートの情報が一元化されたことと、フィジカルや競技技術のデータ管理が行えたことが、重度のケガが非常に多い冬季競技であっても選手寿命が圧倒的に延びた。
- コーチや選手の育成に関しては、国内に拠点を設けて情報を一元管理して、そこから発信するようによい。

### ＜強化拠点の在り方について＞

- オリンピックリオデジャネイロ大会で獲得した41個のメダルのうち、40個が中核拠点にある競技種目だったということを踏まえると、練習拠点と医・科学的なサポートがセットになっていることが重要であることがある程度証明出来ている。
- 「オリ・パラ一体」、「夏季・冬季一体」、これを強化・支援・研究の中でどのように機能させて、どのようにパッケージ化して、どのように共有していくかということが一番のポイントになる。他競技の選手と意見交換をしながら、共に頑張る環境がいい刺激になる。
- NTC競技別強化拠点は、近隣の大学や医療機関、スポーツ医・科学センターと連携して、中核拠点のような、JISS、NTC一体化のシステムを作ることが1つの狙いである。
- 宿泊、食事、リカバリーについては、強化拠点によってかなりばらつきがあり1つの課題である。
- 欧米の強豪国は、オリンピック競技とパラリンピック競技の強化活動と一緒にやっていて、オリンピック競技で培ってきたノウハウや、エビデンスベース、サイエンスベースの強化が一体化されてうまくいっている。
- 強化拠点間のレベル合わせは、お金を掛けるのではなくて、既存の施設や既存の人的資源を有効活用することで、強化拠点間の知の流れをうまく作って行って、充実させていくことが大事。

- 強化拠点を1つのシステム体として見たときに、問題の構造化、意志決定、資源の有効な利活用などを経営システム論の視点から見直すのは有効ではないか。
- 海外では、大学の中にNTCの拠点を持っていて、医・科学パッケージや人材の発掘、競技団体との連携もできている。日本でも大学のいくつかはNTCと同じような機能を持っているが、サポートの資源は未活用などところがある。トレーニング施設はもちろん、宿泊も可能などところもあるので、大学の活用もあり得るのではないか。
- 強化拠点における強化・支援・研究の3つの機能をうまく回していける人が競技団体にいるのか、それともハイパフォーマンスセンターに置くのかということが大きなポイント。
- より広範囲なエリアをカバーするためには、フルタイムの「専門人材」が必要。
- 強化方針が変われば、強化拠点の在り方も変わるので、全体のマネジメントが非常に重要。

### <医・科学サポート、研究について>

- 医・科学サポートのスタッフを養成するシステムがないので、地方にいる人たちの中で、NTC競技別強化拠点で手厚く医・科学サポートできるスタッフを養成することも大事。
- 夏季競技も冬季競技も、オリンピック競技もパラリンピック競技も、日本のスポーツ科学、スポーツに関する知見はハイパフォーマンスセンターに一極集中して、そこに行けば全部解決できるというぐらいの能力は身に付けておくべきではないか。パラアスリートが持っているものをオリンピック競技にもうまく生かす研究も進めていけるとよい。
- 全国のスポーツ科学の研究者と有機的な連携が必要。シンクタンクのリストを作って、医・科学サポート集団みたいなものをうまく配置をしていって、システムにするとよりうまく機能していく。
- 提供できるサービスは何かということの明示化が必要。暗黙知を形式知に換えて、形式知をまた暗黙知に換えていくという知のサイクルを作っていく。最低限のものをしっかりパッケージ化して、各強化拠点に供給していくことをやらなければいけない。
- 内向きのサービスタスクと、外向きのサービスタスクを一緒に考えないと、コストセンターになってしまう。

### <ネットワーク化について>

- 国内外のどこにいても、同じサービスを受けられるようになれば、ネットワークを結んだことになるので、パッケージを作ることが非常に大事。
- ハイパフォーマンスセンターにプラスして地域でのスポーツ科学の知見を集積しているグループとの連携・ネットワークでいつでもとれるようにやっていくことも必要。
- ネットワークを構築するときに、他競技あるいは他の分野から学んだりという人材の発掘、育成、教育は非常に重要で、そのためには複数の競技や情報の一元化を組織的に行い、どのように活かしていくのかが必要。

### <次世代選手の育成について>

- 今後の拠点を考えるときには、若い選手たちが決まった場所に行かないと競技が行えない中で、学業との両立をどのようにしていくのかという点も重要。
- 根拠に基づいた支援を多くの競技団体や地域の子供たちにもうまくそれを伝えていくことが、パスウェイを構築して持続的な強化を維持していくことにつながる。
- N T C 競技別強化拠点では、拠点地域の中で優れた素質を有する子供が見出され、その拠点地域で育っていく、強化されていくといったことが求められる。

### <地域との連携について>

- 雇用の仕組みをうまく作っていくことで、「その地域にはこの競技がなくてはならない」、「地域を挙げてその競技を応援していく、盛んにしていく」、「子供たちがその競技に憧れてトップアスリートになっていく」といったところも大事にしていけないといけない。
- N T C 競技別強化拠点施設に指定されていることが地域住民に知られていないので、オリンピック、パラリンピック関連のマーク、あるいは各競技団体の日頃の活躍、活動を地元の方や関係者に知ってもらうプロモーションを展開すれば、町おこしや、地域活性化戦略、スポーツコミッションにもつなげられる。

### <新たな施設整備について>

- 新たな施設の整備の検討に当たっては、数多い要望の中でどのようにプライオリティーを置くのか、何処にどのように造るのか、また既存施設を利用するのか、ということも整理しなければいけない。